

2014年11月23日 主日礼拝  
説教「仰ぎ見れば、生きる」  
民数記 21 章 4-9 節

【ああ、モーセ】

青銅の蛇の少し前に、メリバの水の事件がありました（20章）。水がないと詰め寄るイスラエルの民。神さまはモーセに岩に命じて水を出すように、おっしゃいました。けれども、モーセは、杖で岩を二度打ってしまいます。そこで神さまは、モーセは約束の地に入ることができない、とおっしゃるのです。ここまで、自分を投げ出してイスラエルをかばってきたモーセ。そのモーセがただ一度のことで・・・。

神さまのこの厳しさはなんともいいようがないものです。けれども、モーセはこの後もイスラエルを覆い続けます。そして助けを求めるイスラエルのために青銅の蛇を上げたのです。

【青銅の蛇】

それにしても青銅の蛇をめぐるできごととは奇妙な事件。なぜ青銅の蛇の作り物を見上げただけでいのちが助かるのかわからないのです。わかっているのは、神さまがイスラエルをあわれんでくださったということ。またしても、神さまを信じないイスラエル。神の友モーセに詰め寄るイスラエル。そのイスラエルに神さまは燃える蛇を送られました。燃える蛇は、猛毒の蛇。けれども、神さまはそうして死んでいくイスラエルをあわれに思われました。赦すべきで

ないイスラエル。けれども、あわれに思って赦すことになってしまわれた神さまは、全能の力をイスラエルを助けることに使われました。青銅の蛇を仰ぎ見るならば、助かるということにしてくださいなのです。

とても奇妙なことです。けれども、もっと奇妙なのは罪。神さまに愛されるために作られた私たちが、神さまがいないことになって生きようとする。神さまの手からなしに生きようとする。これは奇妙であり、異常なことです。その異常さから、私たちを救うために神さまは、私たちに不思議に思えることを要求なされた。それは仰ぎ見ること。仰ぎ見ているのは、青銅の蛇のようですが、実は神さまの恵み。不思議な手段を用いて、なんとか私たちを救おうとなさる、神さまの恵み。そして、恵みを与える神さまご自身なのです。

【主イエスの十字架】

ヨハネの福音書 3 章で、主イエスはこの蛇について語っておられます。「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです」（3:14）。青銅の蛇には、神さまの深いあわれみがありました。やがて御子を十字架の上につけるということを、神さまが心に誓われてなされたことだったのです。イスラエルの罪を、御子の上に置くしとして、青銅の蛇を上げさ

せました。そこにあらわれた神の恵みを信じる者が救われるため、恵みの神を仰ぎ見る者が生きるためです。

だから、御子を信じる者は永遠のいのちを持つのです。神さまとともに、永遠に生き、永遠に神さまと愛し合うのです。私たちは、御子の十字架によって生きるのです。十字架の上でご自分をあたえてくださった、御子の犠牲によって生きるのです。

主イエスの十字架もまた、不思議です。それは、私たちの罪のため。でも私の罪は私の罪であって、主イエスの罪ではありません。私たちのために神さまは、御子の十字架によって罪が赦されることになってしまわれました。強引ともいってよいなさり方で、そうしてしまわれました。私たちを惜しむあまりに。

【仰ぎ見れば、生きる】

永遠のいのちを持つことは、今もう、私たちの中に起こっています。「仰ぎ見れば、生きる」ことは、もう始まっているのです。

仰ぎ見て生きる生き方を知りたいければ、モーセの生涯をみればよいのです。それは、神さまの友として生きる生き方。神さまのように、神の民を愛して仕える生き方。永遠の望みを抱きつつ、今のときを力の限り、神と人への愛に生きる生き方。そして、人びとに、「仰ぎ見れば、生きる」と神さまを指し示す生き方です。そのような者とされているたがいを喜びましょう。